

## 別記

### 審議概要

#### 1 公開案件の審議

##### (1) 報告1 専門高校フューチャープロジェクトについて

ア 説明員 堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

##### 【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

令和2年度（2020年度）から今年度までの3か年で実施をしていますが、先日17日にこの事業の成果発表会が行われましたので、このことを含めまして、これまでの取組の成果等について、説明したいと思っております。

はじめに、1の趣旨についてですが、この事業は、農業高校と工業高校が大学や企業等と連携し、地域産業の課題解決に必要な資質・能力を育成するための実践的な研究に取り組むものであり、今年度が最終年度となります。

次に、2の研究内容についてですが、2つ目の黒丸に記載のとおり、スマート農業の推進など、地域産業の課題解決に両校の生徒が学科の枠を超えて協働して取り組むことを通して身に付けた知識や技能を、実際の社会に生かす資質・能力の育成につなげる実践的な研究を行うこととしていまして、3に記載しています岩見沢農業高校と札幌工業高校の2校を指定校として進めている事業です。

続きまして、指定校2校の取組を御紹介します。はじめに、4の岩見沢農業高校の取組についてですが、1つ目の「耐雪ビニールハウスの建設」については、冬の期間に利用されていないビニールハウスを活用することができれば、農家の所得向上につながるのではないかとという課題意識の下で、実際に77センチメートルの大雪に耐えることができるハウスを建設しています。2つ目の「米ぬかの発酵熱エネルギー利用」については、冬季のハウス内の暖房の熱源として、クリーンエネルギーを活用できないかという課題意識の下、ハウス内の保温に

向けた研究を進めています。3つ目の「ビニールハウスにおける冷却試験」については、夏季におけるハウス内の温度管理として、雪活用ができないかという課題意識の下、熱交換器の製作などに取り組んでいます。

続きまして、裏面の5、札幌工業高校の取組についてですが、1つ目の「ヒートパイプによる地熱利用」については、ビニールハウスの周年利用に向けて、地熱利用ができないかとの課題意識の下、ヒートパイプの実用化に向けた研究を進め、ハウス内の地上温度が上昇するといった成果を実際に挙げています。2つ目の「元町会館前広場活用プロジェクト」については、日頃の学習の成果を地域貢献に生かすという課題意識の下で、生徒が製作しましたコンクリート平板を広場内に敷設し、小学生と一緒にイラストの色塗りをするなど、地域と一体となった取組を進めています。

次に、6の両校の連携・協働による取組についてですが、「取組の背景」として、農業分野では労働力不足が深刻な課題となっていることなどを踏まえ、その解決に向け、「取組の方向性」として、ビニールハウスのスマート化に取り組むこととしました。具体的な研究としては、「ビニールハウスのスマート化の概要」に記載のとおり、ハウス内の温度や湿度、照度などの自動計測や、スマートフォンなどから遠隔で散水等ができる遠隔監視・制御システムを開発し、実際にハウス内に設置するなど、実用化に向けた実証実験に取り組んでいます。

こうした取組については、冒頭にも申し上げましたが、先週17日に、岩見沢を会場に、生徒が主体となって企画・運営する成果発表会をオンラインも活用しながら開催しまして、現地会場のほか、道内や愛知、大阪、熊本など道外からのオンラインでの参加も含め、高校生や教育関係者、農業・工業関係者など、200名を超える参加があったところです。

なお、両校の取組は、指定校事業としては今年度で終了しますが、来年度以降についても、実習等の授業の中で継続して研究等に取り組むこととしています。

事務局としても、本道における実践的な職業教育の充実に向け、本事業の成果を広く普及するなどの取組を進めてまいりたいと考えています。

説明は以上です。

**【倉本教育長】**

御質問や御意見はありませんか。

**【青山委員】**

この件については、17日に岩見沢で発表があったとお聞きしたのですが、この令和4年度（2022年度）で終わりということではなくて、これからも展開を考えていると思うのですが、今後の展開と取組について教えていただければと思います。

**【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】**

次年度以降の取組としまして、今年度が最終年度ではありますが、各高校で取り組む課題研究において研究を継続するとともに、今後は他の専門高校においても、学科を超えた連携・協力の下、企業や大学等と連携した実践的な職業教育の推進に資することができますよう、本研究の成果を広く全道に普及・啓発していきたいと考えています。

**【青山委員】**

企業は今後も継続して支援してくれるのでしょうか。

**【岡本高校教育課課長補佐】**

事業については、今年度で終わりですので、この事業の成果をいろんな媒体、Webであったり、そういったものを活用しながら、他でも取り組めるような働き掛けをしていきたいと考えています。

**【青山委員】**

企業で継続して協力するという声はなかったということですか。

**【岡本高校教育課課長補佐】**

それについても、関係機関、大学も含めて、これから継続的にできるような打合せを行っていますので、来年度以降、教育課程の中で専門的な授業であったり、講義であったりを位置付けるような方向性で考えています。

**【川端委員】**

感想にもなるのですが、非常に良い取組だなと思っています。それというのも、工業にしても、農業にしても、高校を卒業してからこれらの分野に進んでいくという子供たちが多くの中で、高校生の時代からお互い知り合いになっておき、今後大人になって、この職業に就いたときに、相談をできる仲間になっていくような人づくりもこの取組からできると、より発展性のあるものになるのかなと感じながら聞いていました。

また、大雪ですとか、冬の寒さ対策ですとか、同じような課題について考えている取組ですので、今後は発表や研究をする前に、事前取組の段階から、どういう方向性が良いかというところから討論すると、より発展性のあるものになるのではないかと思います。

**【渡辺委員】**

今回は農業高校と工業高校のコラボということだと思いますが、この農業・工業にかかわらず、この取組の枠組みというのは、いろんな分野で役に立つものではないかと思いますので、是非道教委としてはこの取組を促していくような、枠組みをいろんなところで当てはめていけるような後押しを企画していただきたいと思いました。

**【大鐘委員】**

専門性の異なるそれぞれの高校が協働して新たなものを創り出すということで、とても創造的で、価値があることだと思います。今年度で終わってもこの2つの農業高校と工業高校の事業が継承されるということですが、その他に資料の「2 研究内容」に記載の取組として、「大学や企業等と連携した講義や実習等を教育課程に位置付けるための実践研究に取り組む」というのがありますが、これは先程おっしゃった他の学校の教育課程において、例えば課題研究などにこうした事業を取り入れていくように拡大・普及させていくと捉えてよろしいでしょうか。

**【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】**

あくまで資料の記載については、今回事業として取り組んでいる2校の教育課程の中で、大学・企業関係者などを講師として招きまして、実践的な職業教育に取り組むという意味合いです。

**【倉本教育長】**

この結果も踏まえて、今後、教育課程に入れていけるかというのを検討していくということではないのですか。

**【岡本高校教育課課長補佐】**

こういった成果も踏まえながら、他校でどのような連携ができるかというモデルケースになると思いますので、連携の仕方であったり、講義の位置付けであったり、そういった部分を他校でも普及できないかということは今後検討していきたいと思っています。

**【倉本教育長】**

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

**【倉本教育長】**

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(2) 報告2 「2023 Hokkaido Interhigh Autumn Festival (秋フェス)」の実施について

ア 説明員 堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

今月11月6日(日)に、来年のインターハイ開催に向けた啓発事業でありますインターハイオータムフェスティバル、通称「秋フェス」を実施しましたので、その開催内容や今後の啓発事業について資料を基に説明したいと考えています。

北海道実行委員会では、全国から訪れる多くの人々を「おもてなしの心」で迎えるために、昨年度、北海道高校生活動推進委員会を設置し、様々なイベント等を通じて、高校生が主体となってPR活動を行うこととしていまして、11月6日には、「北海道総体おもてなし活動」の一つとして、ライブ配信型イベントの「秋フェス」を実施したところです。

取組の内容としまして、まず、会場としましては、ライブ配信のメイン会場を札幌の北区民センターに設置しますとともに、一般の方々が参加できるイベント会場を狸小路3丁目に設置しましたほか、道内の高校11校と中継を結んで、実施をしたところです。

実施のテーマは、「つなげる～北海道からのおもてなし～」としまして、遠方の高校生がリモートで参加し、道内外の高校生や多くの方々とつながることを重視しました。

具体的な内容としましては、進行役を道高校生活動推進委員の高校生が務め、オープニングセレモニーを始め、総体2023の概要紹介のほか、各学校による企画動画の配信、視聴者参加型のプレゼントクイズや、四国4県の生徒も参加した「友情の種の伝達式」、カウントダウンセレモニーなど、高校生が主体的に取り組む様々な活動を実施しました。

視聴者からは、「高校生らしさがいっぱい、楽しく視聴できた」、あるいは、「来年のインターハイを楽しみにしている」などといった、応援のメッセージがあったところです。

なお、当日のY o u T u b e 視聴回数は892回となっておりますが、本日現在は2,458回に伸ばしていきまして、日を増すごとに視聴回数が増加しており、インターハイの啓発活動として、一定の効果があつたのではないかと受け止めています。

今後の取組としましては、資料の右側に記載していますが、高校生が冬休み期間中に作成をするインターハイへの応援メッセージ動画をY o u T u b e のオリジナル番組で配信する「冬フェス」の開催や、特にSNSを活用した活動についても積極的に進めたいと考えているところです。

また、資料の下の方にも書いていますが、様々なイベントや媒体等と連携した啓発活動を行うこととしていきまして、年明け2月には、さっぽろ雪まつりへの参加なども計画しているところです。今後とも効果的なPRとなるよう、事業を工夫しながら、会場地市町実行委員会や関係機関・団体と連携・協力を図りながら、大会成功に向けた機運醸成を図る取組を進めてまいりたいと考えています。

説明は以上です。

**【倉本教育長】**

御質問や御意見はありませんか。

**【川端委員】**

インターハイということで準備が大変だと思いますが、高校生活動推進委員会の生徒たちが中心となってこれだけのことをやっているのだと非常に感激しているのと、私たちでは戸惑うSNSですとか、Y o u T u b e ですとかをきつと簡単に使いこなしているのだろうと察しているところです。

このような活動はとても有益なものだと思いますので、このインターハイで終わることなく、インターハイにはない種目の競技大会や文化系の全国大会などの開催も道内では多数あるかと思っておりますので、今回のこの活動を継続的に実施して、支援していただいて、総合大会以外のものも全体で盛り上げていただく活動をしていただけると、実践的な学びの場所になり、ひいては、大人になったときに地域に参画していく一つの

力になるのではないかと感じています。

Y o u T u b eにどのような動画が上がるか楽しみにしたいと思いません。

**【大鐘委員】**

この推進委員会の活動は、高校生が主体的に来年度のインターハイに向けて、おもてなし全般にわたって行っている活動で、大変応援したいと思っておりますが、高校総体推進課において、これまでの推進委員会の活動の成果と課題、解決していければより良くなるだろうと感じている点などがありましたら、教えていただきたいと思っております。

**【松井高校総体推進課長】**

成果や課題等についてですが、まず、今回道内の各高校から高校生活動の委員を選出いただいております。現在、新型コロナウイルス感染症の関係で、その生徒の全員が集まって活動する機会が非常に少ないということが課題の一つです。その中でもリモート等を活用して、会議等を推進しているのですが、子供たちはもっともっとやりたい、つながりたいという気持ちが芽生えてきています。そういったところを大切にしながら、活動を盛り上げていきたいと考えています。

**【倉本教育長】**

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

**【倉本教育長】**

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。



(3) 報告 3 文部科学大臣表彰（障害者の生涯学習支援活動）の被表彰団体の  
決定について

- 報告を了承

(4) 報告 4 令和 4 年度教育費補正予算案について

- 報告を了承